



radio Camnetに続くマガジン版

心身健全

大槻ワールドへ
ようこそ

CAMNETをお楽しみにの皆様、いかがお過ごしですか？「心身健全！」のパーソナリティをしています川崎医科大学衛生学 大槻剛巳です。

さて、CAMNETマガジンの2016年2月16日3〜4月号です。



去年(2015年)のこの季節、東京に行く用事がありました。今もそうですが、大概出張とかありますと、ちょっと早めに目的地に到着するようなプランを組んで、出先で「ちょっと寄り道ブラ@タケミ」ってのをしています。教室のWEBに種々の紀行を紹介するってということで、いつのまにか、いろんなところで、花々や様子を写真で撮影したりすることが趣味的になってきています。そして、去年の東京。清水谷公園です。ここは地名は紀尾井町で、その町名の由来からわかるように江戸時代、紀伊、尾張、井伊のそれぞれの屋敷があった場所なのです。そこで桜もそうですが、みつまたが咲いていました。みつまたは、その枝が名前通りの、必ず三つに分岐する特徴があるため、この名があり、三枝、三又とも書かれています。実は温かくなってきて、春の訪れを待ちかねたように咲く花の一つとしてよく知られているそうです。春を告げるように、一足先に淡い黄色の花を一斉に開くので、サキサクと万葉歌人はよんだ(またはサキクサ:三枝[さいぐさ、さえぐさ]という姓の語源とされる)のだそうです。さらに、和紙の原料としてその皮も使われるそうです。



少し変わった印象の花ですが、この日は快晴で、春たけなわって感じでしたものね。もちろん桜も愛でました。写真で紹介しておきましょう。



昨年、2枚のオリジナルアルバムをiTunesで配信販売を開始しました。今、3枚目のアルバムの録音もほぼ終了し、ひょっとしてこのコラムが配信される頃には配信開始になっているかも知れませんが、今回は Scenes in Seasons、そう四季それぞれの場面を切り取った楽曲を紹介しているのですが、春は桜の曲です。「花曇り」っていうのと、「待ちわびて櫻」の2曲がありました。



この時の清水谷公園でも桜がいっぱい。鳥の名前は知らねども・・・桜の花弁と戯れる小鳥の情景には、心が和みました。でも「花曇り」の歌詞は、浮かれている満開の街で、みんな幸せそうなのに、想いを伝えたい人は、その喧騒と至福の中に混じって行って、一人自分だけ取り残されたような、涙で花が曇って見える的な歌詞なんですけれどね。



と同時に八重桜も綺麗に咲いていました。普通、八重は少し遅れて最後まで季節を楽しませてくれるのですけれど。「待ちわびて櫻」は2008年頃に卒業生の合唱部に贈った曲で、国家試験の合格発表を待ちわびている学生の姿を歌った歌詞でした。「サクラサク」を待ち望んでいる学生た

ちへのメッセージで、卒業謝恩会ではコーラス部のピアノ伴奏も大槻が行いました。懐かしい思い出ですが、春になると蘇ってくるようです。

それでは、また別の春の歌詞を紹介して、皆様、ステキな季節をお過ごしください。

春をつかまえて

私の お部屋の窓は ちょっぴりせますぎて
そよ風の おしゃべりも ああ 聞こえてこない

お庭は お花で一杯 すっかり春景色
なのにまだ この窓に ああ 匂いが 届かない

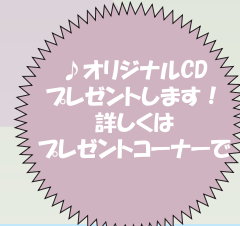
うたたね してる間に 春は 私の そばを
駆け足で 駆け足で 通りすぎるの

つかまえて つかまえて 誰か 私の春を

オレンジ つまんでみたら 小さなささやきが
ひとしづく 頬つたう ああ 涙に 消えてゆく

思い出 待っていたなら 春は 私のそばを
駆け足で 駆け足で 通りすぎるの

追いかけて 追いかけて 誰か 私の春を



プロフィール

大槻 剛巳
(おおつき たけみ)

川崎医科大学衛生学教授	24歳:川崎医科大学卒業
0歳:京都府福知山市にて生誕	以降:川崎医科大学血液内科〜衛生学にて診療・研究・教育に従事
14歳:京都府中学校陸上競技大会にて100mハードル2位	1992-1996年:米国学(医学研究)
14歳:KBS近畿放送AMラジオでリスナーの詩として採用	1996年:岡山県文学選奨現代詩部門選外秀作として「岡山の文学」に掲載
15歳:倉敷市に転居	2009年:Camnet CH-F(10-19)パーソナリティ担当
15&18歳:NHKあなたのメロディー出演	現在に至る
18歳:YAMAHAポプコン全国大会(譜面の部)出場	
20歳:YAMAHA神戸との連携で楽曲依頼あり	